夢を応援基金

～東日本大震災奨学金制度～

2012年度活動報告

LAWSON　CIVIC FORCE　CHARITY PLATFORM

制度概要

名称	「夢を応援基金」(東日本大震災奨学金制度)
奨学金	月額30,000円(給付、返還不要)
奨学生	約1,097名（2011年9月奨学金給付開始時の人数）
目的	本奨学金は、2011年3月11日に発生した東日本大震災(以下「本震災」という。)によって経済状況が急変、または悪化し、就学継続が困難な状況にある、日本国内の高等学校及び高等専門学校(1~3年)、並びに高等専修学校に在籍する生徒に対し、大学など上級学校卒業までの間、奨学金を給付することにより、経済的不安を緩和し、学習効果を高めることを目的として寄与するものです。
運営体制	創設者：株式会社ローソン 運営主体：公益社団法人Civic Force 基金事務局（奨学生等との窓口業務）：特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム *この事業は、Civic Forceの「中長期復興支援事業」の一環として運営されています。また、奨学金を含む運営のための資金は、ローソンによる「夢を応援基金」店頭募金やPontaポイントでの募金のほか、Civic Forceオンライン寄付などから受け付けられた寄付により賄われています。
支援の内容	■ 月額3万円の奨学金給付(返還不要) ■ 教育プログラム（ボランティア活動、海外研修など）の実施によるサポート ■ その他被災地の生徒や学校からの意見も取り入れ、現地のニーズに合わせた様々なサポートプログラムを実施予定
対象者 *募集当時	高校進学を控えた中学3年生（予約奨学生）、高等学校、高等専門学校（1～3年）等に在籍していた生徒
応募資格 *募集当時	下記(■)の条件をすべて満たし、かつ、AまたはBのいずれかに該当すること ■ 本震災時に家計を支える方が岩手県・宮城県・福島県に居住しており、同地域の学校に通学していた生徒 ■ 学校の推薦を受けることができる品行方正な生徒 ■ 夢をかなえるために、意欲と根性があり、東北の復興への貢献を希望している生徒 ＝＝＝ A.本震災により家計を支える方が死亡・行方不明・負傷病気・失業等の被害を受け、経済的事由により就学が困難な状況が見込まれる生徒 B.本震災により住居していた住宅が半壊・半焼または床上浸水以上程度の被害を受け、または計画的避難区域になっているなど、経済的事由により就学が困難な状況が見込まれる生徒
支給期間	2011年9月より高校・高等専修学校卒業または専門学校・大学などの上級学校(大学院除く)卒業までの最大7年間 ※2011年度は、2011年9月から2012年3月までの7ヶ月間。以降、毎年進学時に更新手続き有り
注意事項	受給者は、奨学金の返還義務を負いません。また、奨学金の主たる提供者(株式会社ローソン等)への入社等その他の付帯義務を負うものではありません。 **※2013年3月現在、奨学生は募集しておりません。**

「夢を応援基金」運営協力企業

株式会社教育新聞社
運営のための様々なご協力をいただいております

認定特定非営利団体ブリッジフォースマイル
運営のための様々なご協力をいただいております

株式会社七十七銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

株式会社東邦銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

株式会社岩手銀行
奨学金等の振込に関する手数料の一部を
免除いただいています

第2期活動概要

2011年3月11日の東日本大震災発生より1か月後、被災地の状況の把握も困難な状態が続く4月下旬、株式会社ローソン様（以下、ローソン）より、被災生徒を対象に、来年春に高校生になる子どもたちが大学を卒業するまでの最長7年間、奨学金を支給したいというお申し出をいただき、ローソンの冠プロジェクトとなる夢を応援基金プロジェクトが立ち上がりました。

3カ月後の7月末までに、事務局には2,400通の奨学生申請書が届き、それぞれの学生が想像を絶する状況にいることを改めて感じながら、対象者予定約1,000名決定のために、選定の作業は外部制度検討委員会も含め、何度も何度も関係者間での協議を繰り返し、約1ヶ月半の間続きました。

9月には予定を約100名超えた1,097名の奨学生が決定し、震災から半年後の10月、「一刻も早く、必要とされる方々に奨学金を届けたい」というローソン様の想いが月額3万円の給付型奨学金として届けられました。

同時に、今回残念ながら奨学金支給の対象とならなかった生徒（応募条件を満たしていた方）の方にも、奨学金の1カ月分である3万円と、ローソンで使用できるプリペイドカード6千円分が一時支援金として支給されました。

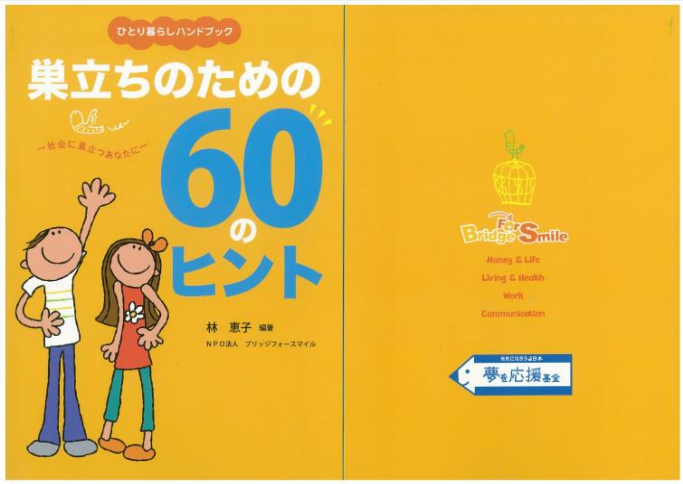
　それから約1年半ーーー2012年4月、初めての更新手続きでは、48名の子どもたちが高校を無事卒業し、社会に羽ばたいて行きました。その他、223名は上級学校（大学、短期大学、専門学校等）へ進学し、2012年度は、1,039名の奨学生と共にスタートしました。1年間の奨学金支給を経て、2013年3月、「夢を応援基金」は皆様のご支援のお陰で、無事、第2期を終了することができました。

　基金の創設者であるローソン、そしてローソングループの店頭募金にてご協力をくださった多くの皆様、寄付つき商品等でのご協力をいただいた企業の皆様、そしてオンライン寄付によりご寄付をいただいた個人の皆様に、活動のご報告と併せまして、心より御礼申し上げます。

夢を応援基金の主な活動		
2013年	4月	2013年度奨学生の更新手続を実施
	3月	■「夢を応援基金」の運営主体が公益社団法人Civic Force（シビックフォース）に移行 ■全国のローソンで、募金告知のため「1,097のありがとう。」（小冊子）を配布 ■全国のローソングループ各店で店頭募金実施（～5月末）
	1月	奨学生のうち、高校2年生を対象に、自立支援ハンドブックを配布
2012年	5月	予約奨学生（申込時に中学3年生で、新高校1年生）への奨学金支給開始
	4月	2012年度奨学生の更新手続を実施
	3月	■全国のローソン各店で店頭募金を実施（～5月末） ■奨学生のうち、高校2年生及び高校3年生を対象に、自立支援ハンドブックを配布 ■基金奨学生募集時に、申請書を提出した学生が在籍する高等学校及び高等専門学校に対し、自立支援ハンドブックを寄贈
	2月	ローソン主催による、被災3県の高校生を応援する夢を応援基金「スペシャル講演＆ライブ2012」を仙台市で開催。約700名が参加
2011年	12月	ローソングループ社内募金の受付開始（給与天引き制度）
	11月	旺文社様からのご寄付と寄贈により、奨学生募集時に申請書を提出した学生が在籍する高等学校、高等専門学校、中学校全358校に対し、『それでもいまは、真っ白な帆を上げよう』を2冊ずつ寄贈（合計718冊）
	10月	■第1回目の奨学金を支給 ■奨学生とならなかった生徒には、支援金3万円とローソンプリペイドカード6千円分を進呈
	9月	1,097名の奨学生が決定（応募総数2,400名）
	7月	被災地（岩手県、宮城県、福島県）の高等学校、高等専門学校、中学校等に奨学生の募集を告知し、奨学生を募集
	5月	■全国のローソン各店で店頭募金を実施（～8月） ■ローソン各店舗にて、寄付つき商品の販売を開始（その後随時実施）
	4月	夢を応援基金創設
	3月	東日本大震災発生

サポートプログラム実施報告

2013年1月、 2012年3月、自立支援ハンドブックの配布



設立に多大な協力をいただいたNPO法人ブリッジフォースマイルの代表、林恵子さんによる著書「ひとり暮らしのハンドブック　巣立ちのための60のヒント」。児童養護施設から社会に巣立っていく準備の本として書かれたものですが、一人暮らしや仕事、保護者からの自立にあたり、知っておくべき大切なことがたくさん詰まっているため、夢を応援基金バージョンとして編集をし、昨年度の高2及び3年生の奨学生を対象に、配布いたしました。
役立つ内容がいっぱいで、ぜひ兄弟にも買いたいと保護者の方からのお問い合わせもいただきました。

2012年2月ローソン主催による■スペシャル講演＆ライブ2012■開催

サポートプログラムのイベント第1弾として、ローソン主催による「スペシャル講演＆ライブ2012」が開催され、岩手県・宮城県・福島県の当基金奨学生をはじめ、高校生の方々が招待されました。当日は、700名を超す皆様を前に、第1部では学生時代を振り返り、どんな夢を描いてどのような日々を過ごしていたのか、奨学生4名も登壇し事前アンケートで寄せられた質問を投げかけながら、音楽プロデューサーの小林武史さん、歌手の一青窈さん、そしてローソンの代表取締役社長である新浪剛史さん、取締役副社長の玉塚元一さんによる対談が行われました。第2部では、ミニライブが行われ、一青窈さんの力強く美しい歌声が、会場に響き渡りました。

2011年11月旺文社より、応募対象学校358校に本の寄贈がされました。

寄贈された、『それでもいまは、真っ白な帆を上げよう』は、3.11東日本大震災直後に行われた、日本全国の大学・高校の卒業式での学長・校長のお話の中から、心にずしりと届く、勇気が出ることば・感動メッセージを紹介している本です。この本の売り上げの一部夢を応援基金への寄付としていただき、さらに、被災地の先生、生徒の方々、保護者の方々にも読んでいただきたい内容であることから本そのものの寄付をお願いしましたところ、合計716冊の寄贈をいただき、被災地の中学校・高等学校へと届けられました。

卒業した奨学生からのメッセージ

2013年春も、多くの奨学生が、社会へと飛び立っていきました

わたしは福島県に住んでおり、通っていた学校は警戒区域に指定され、今回の卒業式も自分の校舎で行うことはできませんでした。しかし、この**卒業式を迎えることができたのも、ローソンの奨学金があったからこそ**だと思っています。2年間、本当にありがとうございました。

支援していただきありがとうございました。私は、夢を応援基金をいただけるなんて思ってもいませんでした。家もあり、家族も無事でした。周りからみれば被災者ではありません。けど、父の仕事を失い生活するのがやっとでした。周りには家を失った友達や家族を失った友達が居る中で被災者だと言って支援や助けを求めることが出来ませんでした。そんななか、夢を応援基金に出会って支援していただきとても助かりました。バイトづけで家庭を支えながら忙しい高校生活をすると思っていた私は、**基金に支えられて学びに集中し友達と楽しい高校生活をおくる事が出来ました**。かけがえの無い高校生活をプレゼントしていただきありがとうございました。

私の夢はコンサートプロモーターでした。けど、**夢を応援基金と出会って夢は変わりました。人を支える仕事に就きたい**と思いました。色々と考えた結果、たくさんの人たちに支えられながら身につけた商業高校の知識をいかせて、地域や地元住民の方々と支え合いながら働ける信用金庫に就くことにしました。就職活動は苦戦しましたが無事に信用金庫から内定をいただきました。私はたくさんの方々に支えられてとても幸せ者です。私のように見た目は被災者じゃなくて周りに助けを求めれない人はたくさんいると思います。そんな方々を助けてほしいです。最後まで厚かましいお願いをしてすいません。私を支えてくださりありがとうございました。

先日、東日本大震災から、２年が過ぎたと報道され、「あぁ、もうそんなに時間が経っていたのか」と思うほど、この２年はあっという間でした。様々なことがあり、辛いことも苦しかったこともありました。そんな２年間の中で、楽しい日々を送ることができたのも、多くの方々が支援して下さったからだと実感しています。**本当にたくさんの方々から、支援して頂けて、とても嬉しかったです**。何よりも、助けて下さる、**「頑張って」という応援の言葉が本当に嬉しかった**です。今回、私はこの『夢を応援基金』に参加することができて、本当によかったと思っています。私自身は、今年から、社会人となります。一人暮らしも初めてのことで、正直、不安で一杯です。ですが、この『夢を応援基金』さんに参加することができて、私は夢であった、食べ物を作る仕事に就くことができました。これも、やはり支援して下さった方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。これからは、自分自身の夢を、目標を叶えて行くと共に、支援して下さった方々や、励まして下さった方々等、本当に多くの人に少しでも恩返しができればいいなと思っています。拙い言葉で、上手く言葉に表すことができませんが、本当に感謝しています。ありがとうございました。

震災のため両親とも失業してしまい、自分の進路を決めかねていましたが奨学金をいただくことで頑張って専門学校で勉強しようと思いました。今は就職活動中ですが、**早く仕事を見つけて応援してくださった方々の気持ちに応えたい**と思います。ありがとうございました。この奨学金で私は生活費の一部や、定期券の購入に使っていました。震災で自宅が流失し、生活を送るのが困難でしたが奨学金のお陰で元の生活ができました。有り難うございました。

この「夢を応援基金」の奨学金のおかげで充実した学校生活を送り夢に向かって毎日勉強に打ち込むことが出来ています。この**感謝の気持ちを忘れずこれからの震災からの復興にわずかにでも力になっていけたら**と考えています。そのためにも今出来る最大限の努力を怠らず毎日を過ごしていきます。私の考える復興は形だけの復興ではなく心の底から安心出来る状態で初めて復興出来たと考えます。そのためにも私は病院で身体だけでなく精神的にも癒される治療を目指していきます。今後、同じ様な震災が起きた場合に一番支援していかなければならないのは沢山の支援をしていただいた私達自身であり、震災の辛さを理解し助けられるのも私達自身です。この支援の大切さを忘れずいつの日か私自身が支援する立場としても復興に関わっていきたいです。

私は3月に無事高校を卒業することができました。これもご支援くださった皆様のおかげだと思って感謝の気持ちでいっぱいです。震災から2年がたち、今は普通の生活を取り戻せてきているような気がします。仮設住宅の暮らしにもなれてきました。最初は不安で学校に通えるのか、住む所はどうなるのか、いろいろ考えました。でも**前に進むしかない**と思い頑張りました。おかげさまで高校は楽しく充実した3年間をおくることが出来ました。卒業式は友達といっぱい泣きました。でもみんなこれから目標に向って歩いていきます。私も東京に就職がきまり、今は寂しさと不安とで胸がいっぱいです。でも、頑張ります。**ご支援くださった皆様への感謝の気持ちは忘れません**。本当にありがとうございました。

あの大震災で、家は半壊。屋根を直すだけで数百万…今現在、家は傾いたままです。**奨学金がなければ、高校をやめようと思っていました**。本当にありがとうございました。これから、頑張って生きていきます。

皆様の支援、そして「夢を応援基金」の**おかげで進学ができました**。この奨学金がなければできなかったことです。震災により進学が危ぶまれていたのでとても感謝しています。ありがとうございました！これからは支援してくださった皆様の恩を忘れず宮城県内でがんばって働いていきます。

東日本大震災から２年３ヶ月がたった今、一日も地元をわすれることなんてことは一度もありませんでした。私は高校を卒業し、親元を離れ就職をしました。働くことの大変さを身に感じ、親の気持ちがよくわかり、感謝しています。自分が学生のときに起きた震災で、部活をしていた私は、親への負担はないかとても気にしていました。ですが**「夢を応援基金さん」のおかげでとても助かりました**。本当に感謝しています。私は陸前高田ですごした１５年はとてもかけがえのないものですし、いつかは地元に戻って復興に携わっていきたいと考えています。たくさんの問題があるなかでも復興しているのはたしかです。**私たちがこれからの東北を創り上げていきたい**です。

奨学生の今（その1）

福島県　阿部聖也さん
専門学校１年

「今」を大切に普通の生活を楽しんでいます

地震の時は、キャプテンだった高校のバスケットボール部の練習中でした。1日ですべてのものがなくなってしまった経験から、今まで当たり前だと思っていた日常生活の大切さに気がつきました。だから19歳の今しかやれないことには、積極的にチャレンジ。体を動かすことが好きなので、専門学校の勉強のほかに、放課後はジムに通ったり、週末は友人たちと一緒にスノーボードをやったりしています。また震災がきっかけで、いろいろな人に支えられて、今の自分がいることを実感しています。

僕は原発事故によって起きた、放射線の問題で騒がれている福島県の役に立ちたい。復興のために自分も頑張りたい。放射線に対する正しい知識を学びたい。看護師の仕事を通して心に不安を持っている人や、病気で困っている人を助けたいと考えています。そんな僕を母も応援してくれています。そのためにも看護の三要素といわれている「知識・技術・患者さんへの対応」をしっかり身につけようと、看護師になるために頑張っています。

夢はピアノの先生　子供たちに夢を与えたい

お姉ちゃんの影響でピアノを習い始めて、小学3年の時にある先生に出会いました。とても優しくて、時々厳しくて、尊敬できる先生。私もそんなふうになりたいと思うようになりました。でも震災後は毎日が精一杯で、夢を諦めかけたこともありました。避難していた小学校の体育館にピアノがあって、ただずっと眺めていたのを覚えています。仮設住宅に移ってデジタルピアノが手に入った時はうれしかったです。音を出して弾くことはできないけど、触れていれば心が落ち着いて、不便な暮らしを一瞬でも忘れられます。そして今、また教室に通い始めて、先生のもとで指導を受けています。「夢を応援基金」の奨学金は、ピアノの専門学校へ通うために貯金しています。ピアノは私にとって手放せないもの。それを大切に抱えて、先生のように子どもたちに夢を与えられるような人になりたい。それが、応援していただいている皆さんへの恩返しになればいいなと思います。

岩手県　小山志乃さん
高校２年生

宮城県　永井宗篤さん
大学1年

進路を支えてくれた人たちに医療の即戦力となって恩返ししたい

今、僕は生まれ育った宮城県を離れ、埼玉県にある大学の診療放射線学科で勉強しています。辛い思いをしている患者さんに、親身に接してあげられる放射線技師になることを想い描きながら、3年後の国家試験合格を目指しています。

消防士の父と、看護師の母の働く姿を見ていて、小さいころから医療機関で働こうと思っていました。漠然と「放射線技師になりたい」と思っていたころ、震災が起き、放射能の影響についてさまざまな話題が飛び交いました。このとき、「人々の健康に貢献する放射線もあることをみんなに知ってもらいたい、役立ててもらいたい」と感じ、放射線技師になるという想いをさらに強くし、大学進学を決めました。

両親や親戚、そして「夢を応援基金」が僕の進路の支えとなりました。この奨学金で教科書を購入し、国家試験へ向けた学習費用や試験料に充てるために、できるだけ貯金しています。僕が放射線技師になったら、こうして支援してくれた人たちみんなに恩返しをしたいと思っています。

奨学生の今（その2）

宮城県　藤本朱子さん
大学１年

将来、人の役に立てるように　充実した学生生活をおくっています

修学旅行でイギリスに行って日本と異なる文化に興味を持ち、語学や国際関係が学べる大学に入りました。「夢を応援基金」の奨学金でひとり暮らしをしながら通学しています。外国の方とコミュニケーションが取れるように、大学では英語を一生懸命学んでいます。教職課程も取っていて、アルバイトでは小学生にスイミングを教えています。人と触れ合うのが好きなんです。将来も何か人の役に立てるような仕事に就きたい。それが今の夢です。高校時代から続けているアーチェリーの練習にも力を入れています。東北の大会での連覇、インカレでのベスト8入賞、そして今年の東京国体に出場することが目標。勉強にバイトに練習にと、充実した毎日です。震災ですべてを失って何が必要かも分からない状況から、今こうしてたくさんの夢や目標を持つことができるようになったのは、皆さんのご支援のおかげです。その気持ちに応えられるよう、大学生活でたくさんのことにチャレンジしています。

行政の保健師になって地域復興を目指したい

震災による津波の影響で、住む家をなくしたとき、当時高校2年生だった私は、家計を助けるために高校を中退して働こうと考えていました。その頃「夢を応援基金」などの奨学金を知り応募。奨学生として出会った仲間の中には、私と同じように震災で家をなくした人や、もっと大変な境遇をくぐり抜けてきた人がいました。情報交換していくうちに以前から漠然と思い描いていた保健師への夢が、どんどん具体的になってきました。

避難所にいたときは、インターネットを利用して、被災地の情報発信をしてきました。私の発信に答えてくれる人、被災地を訪ねてくる人との出会いを通して「人ってこんなに優しいんだ」と感じました。一方で避難所という集団生活の中で、自分の心を休める場がない人、不安を抱えている人もいました。私はそういう方たちのところに自分から行って、その人と一緒に歩いて行ける「支え木」になりたいと思います。将来は岩手県陸前高田市に戻り、ふるさとの復興に貢献したいと考えています。

岩手県　福田順美さん
大学１年

※学年は2013年3月時点のものです。

上記インタビューは、より多くの方々に「夢を応援基金」を知っていただき、ご支援をいただけたらという願いから、奨学生の「今」を伝える小冊子『1,097のありがとう。』として、震災から2年を迎えた2013年3月、全国のローソンで配布されました。

奨学生の2012年度の振り返り

奨学生に、2012年度を振り返って「最も印象に残ったこと」、「学んだこと」、「力を入れたこと」、「来年チャレンジしたいこと」、「今、伝えたいこと」などをテーマに課題作文を書いてもらいました。

【この1年間で私が出会った最も印象に残る人物】

北海道の老人と始まった文通　―中学3年生・女性・岩手県

中学３年生の時、震災で感じた思いや避難所生活で実感したことを書いた作文が、日本語大賞という作文コンクールで最優秀賞に選ばれました。新聞に作文の記事が報道され、それをきっかけに一人の老人が手紙をくれ、そこから私たちの文通が始まりました。ある時、この老人が岩手に来ると言うので、会う約束をし、その日、元気なお爺ちゃんが私が住んでいる仮設住宅に来ました。そして一緒に写真を撮り、私が前に住んでいた町や家があった場所を案内しました。その老人は、私の家があった場所のがれきを袋いっぱいに詰めて「北海道に帰ったら家の庭に埋める」と言って、私は感動しました。それからたくさん話をして、たくさんたくさん元気をもらいました。震災が起きたおかげ、というのはおかしいけれど、このような新しい出会いがあり感謝しています。私たちの文通は今も続いていて、いつも元気をもらっています。

【来年チャレンジしたいこと】

放射線技術の資格を取るために　――高校2年生・女性・福島県

来年、大学受験を控えています。第一志望は、医学部保健学科などの放射線技術を用いた医療的検査技術を学べる大学です。大学卒業後は国家試験を受けて放射線技師の資格を取得したいと考えています。医療的な放射線技術といえばレントゲン、エックス線などに始まり、死因究明のAi（死亡時画像診断）など活躍の幅が広がっています。私が初めて放射線に興味をもったのは福島原子力発電所の爆発事故がきっかけです。情報を知るほどにテレビやラジオ、新聞のメディアで流されるマイナスイメージとは裏腹に私たちの生活に欠かせない要素であることを知り、もっと専門的に大学で学び、ゆくゆくはそこで得た知識と技術を仕事にして社会に還元できればと思うようになりました。また大学では、人間関係もうまくいくようにしたいです。全国規模の広範囲から人が集まる大学では、自分とは大きく異なるイデオロギーをもつ人がたくさんいるでしょう。社会に出ることを考えたらなおさら。私が将来医療に関わる仕事につけたなら、そこで求められるチームプレイは必要不可欠だと思います。

【この1年で最も印象に残っているできごと】

「大学へ進学できました」　――大学1年生・女性・宮城県

私は、震災を通して、人との出会いがこんなに勇気を与えてくれるのかと驚きました。特に、たくさんの著名人の方が被災地に足を運び、コンサートを開いてくださり、勇気をもらいました。また、瓦礫の受け入れなどたくさんの方が被災地の復興をサポートしてくださっていることをニュースで知り、支援を当然と思わずに自分にできることを一生懸命やりたいと思うようになりました。震災で大学進学の夢を諦めていましたが、ローソンさんの「夢を応援基金」のおかげで夢を実現しようと前向きになり、大学に進学することができました。この恩を忘れずにこれからも夢の実現に向けて頑張りたいと思います。そして、将来は被災地の復興と夢を実現するという目標を達成して、支えてくださった方々に恩返しができたら幸いです。

【来年チャレンジしたいこと】

「看護師になるチャンスをつかみました」　――専門学校1年生・男性・宮城県

高校卒業後、准看護学校へ入学することになりました。中学生から入学できる准看護学校ですが、社会人の応募も多く、定員40人のところに156人が応募したので、とても受からないと不安に感じていましたが、結果は合格。看護師になるチャンスを頂きました。
震災の日に多賀城（宮城県）にいた私は泥まみれの街を見て「自分も何かの役に立ちたい」「今目の前で困っている人を助けられるようになりたい」と強く思い、今日に至ります。この目標を達成するための立場と能力を得る機会を、このたび頂くことになったと感じています。私の来年の目標は何が何でも食らいつくことです。決してくじけずあきらめず、貪欲に学んでいこうと思います。

【私の宝物】

恩師・村山先生の遺志を継いで　――大学2年生・男性・宮城県

高校生のとき、教師になりたいという夢を志したものの、突然起きた未曾有の大震災で、家屋も被害に遭い、経済的にも厳しくなったので大学は諦めかけていました。ただ、どうしても諦めきれなかった理由があります。それは、高校の時の恩師である村山先生の一言でした。村山先生は私が通う仙台商業高校に10年以上勤務していて、私が高校卒業と同時に定年退職を迎えるおじいちゃん先生でした。「お前は絶対先生になってこの高校の教壇に立ってくれ」と、授業の最後に呼び出されては何度も言われていました。しかし、入院していた村山先生がガンでこの世を去りました。自分たちと一緒に卒業する夢はかなわず、亡くなった日は奇しくも私の誕生日７月１日。何かの運命なのかと思い、今は先生の遺志を受け継ぎ教壇に立つことが、先生への最大の恩返しだと信じています。

【この1年間で学んだこと】

心に響いたお礼の言葉　――専門学校2年生・男性・福島県

私は今までボランティアに参加したことはありませんでしたが、東北復興のために何かやってみたいと初めてボランティアに参加し、多くのことを学びました。活動内容は、津波被害にあった農家の畑の土おこしやがれき撤去など。震災が起きるまで農業で生計を立て生活していたそうですが、前向きに農業再開に向けて頑張っている姿を見て、「辛いことがあっても下を向いてはいけない。諦めてはいけない」と教えられました。それから一生懸命活動し、一人の農家の方の畑のがれき撤去と土おこしを終えました。その時、農家の方から「寒い中本当にありがとう。頑張ってくれたからこんなに早く農業が再開できそうだ」と言われ、私はこれまで感じたことのない、不思議な気持ちになり、心に響きました。この経験を通して、私は人の役に立つことの素晴らしさ、本当に気持ちのこもったお礼や挨拶の大切さを学ぶことができました。これからもボランティア活動を続けたいと思います。

基金運営活動収支報告

「夢を応援基金」活動収支計算書（2012年4月～2013年3月）

（単位：円）

昨年度からの繰越金			**¥420,085,438**
寄付金等収入			**¥390,313,975**
ローソン拠出金		¥100,000,000	
店頭募金		¥258,791,583	
ローソン	¥234,406,720		
九九プラス	¥24,103,287		
ローソンＨＭＶ	¥281,576		
寄付つき商品		¥20,824,784	
ローソン取引先様＊	¥15,623,404		
ローソン	¥4,699,648		
九九プラス	¥501,732		
Ponataポイント募金		¥1,725,951	
ローソンオーナー義援金		¥113,038	
ローソン社員募金		¥8,650,500	
チャリティ・プラットフォームを通じての寄付・募金		¥208,119	
その他収入			**¥58,632**
受取利息		¥58,632	
収入合計			**¥390,372,607**
奨学金・支援金支出			**¥380,960,000**
奨学金（1036名×年間36万）		¥372,320,000	
一時支援金（現金3万円/人、250名分）**		¥7,500,000	
一時支援金（プリペイドカード6千円/人、190名分）***		¥1,140,000	
基金運営支出			**¥13,968,756**
基金運営管理費用		¥11,279,784	
奨学生情報管理・連絡システム構築費		¥2,184,000	
一時支援金用プリペイドカード購入費用		¥32,800	
ソフト支援（サポートプログラム）費用		¥73,382	
模擬国連	¥42,220		
「自立支援ハンドブック」配布	¥31,162		
奨学金等振込手数料		¥398,790	
支出合計			**¥394,928,756**
次期繰越金			**¥415,529,289**

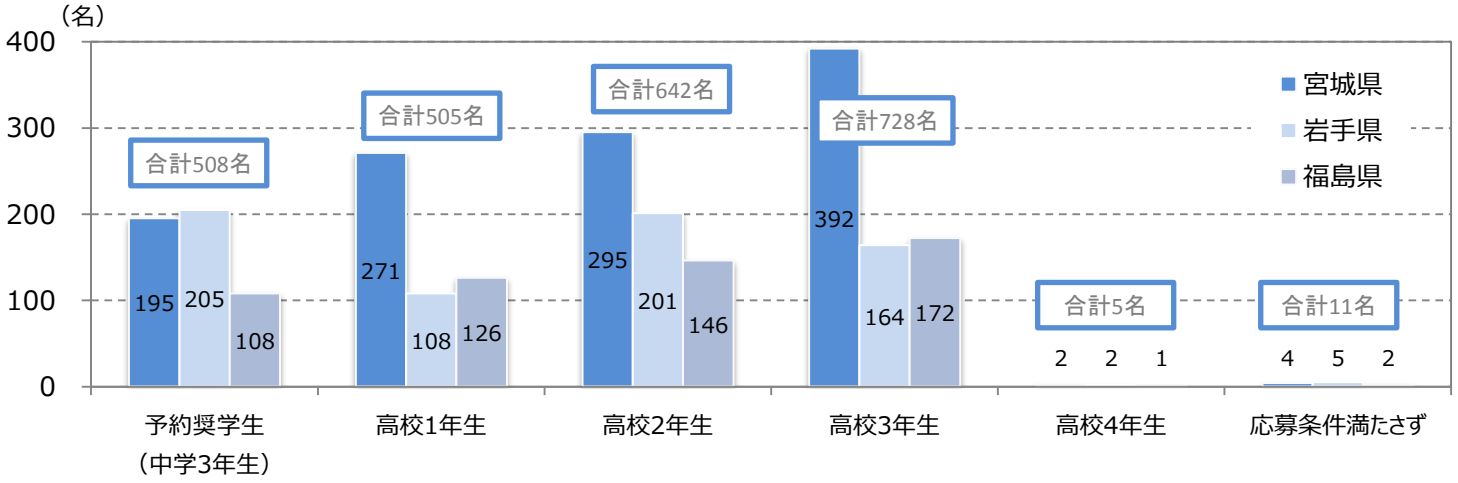
＊　寄付つき商品の販売による寄付は、下記のローソンお取引先（企業）のご協力によるものです。（順不同）
アイリスオーヤマ株式会社、株式会社おやつカンパニー、カルビー株式会社、株式会社サンデリカ、株式会社仙台水産、
株式会社不二家、株式会社明治、森永製菓株式会社 、ヤマザキナビスコ株式会社、山崎製パン株式会社、ロッテ商事株式会社

**　当年度の一時支援金支給対象者は249名でしたが、手続きの時期により、昨年度の対象者1名分が含まれています

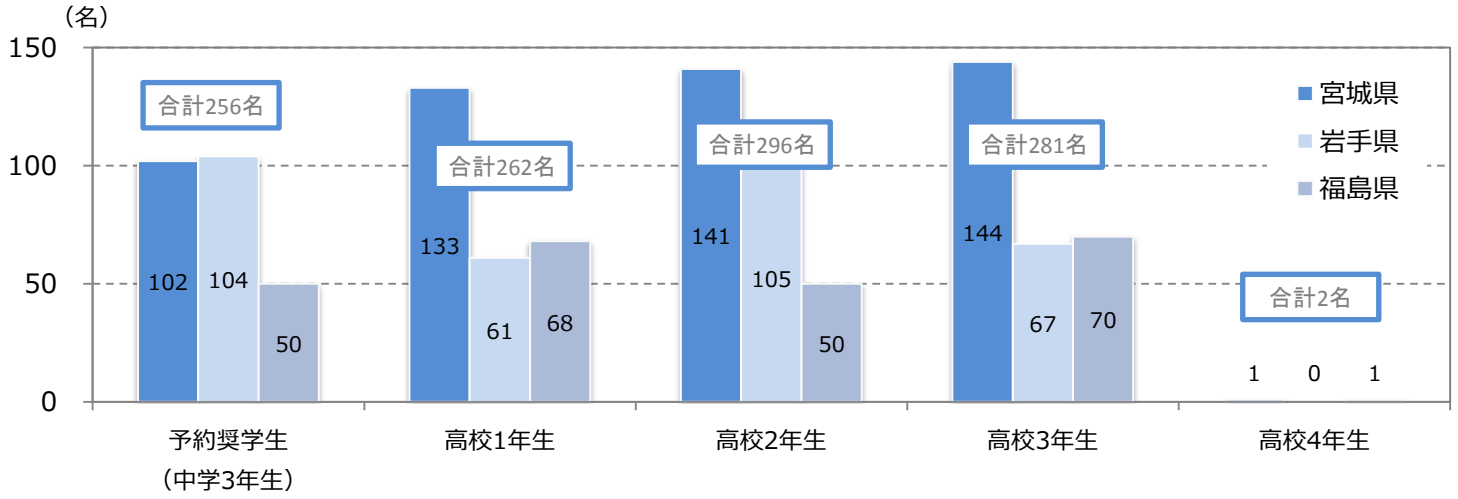
***　当年度の一時支援金支給対象者は249名でしたが、昨年度より59名分（354,000円）のプリペイドカードを繰り越しているため、新たな購入は190名分となっております

奨学生等の状況

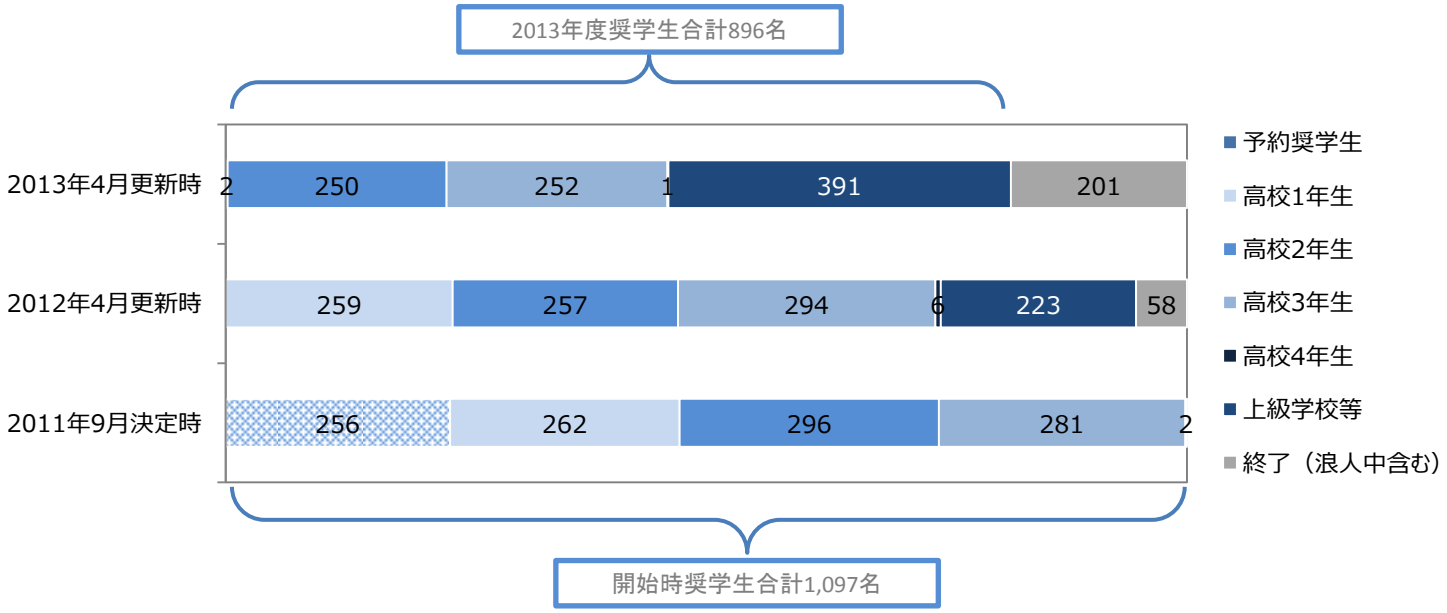
応募数内訳（合計2,400名。3県外からの応募だった1名は下記のグラフに含まれていない）



奨学生決定数内訳（合計1,097名。2011年9月末現在）



奨学生推移



*各生徒数は、2012年4月の更新手続きにおいて、募集時の情報の訂正等があり、以前に公表されたものと数値が異なる場合があります。